

令和元年5月29日  
 国立大学法人 山梨大学

## 令和元年度事業計画：中部横断自動車道開通による整備効果分析

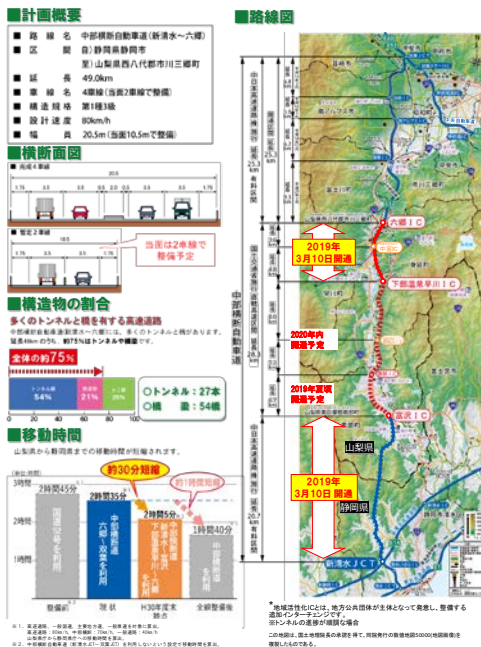
### 【事業の概要】

- (1) 中部横断自動車道の開通前後のデータから、山梨-中京圏の経路変更状況を把握（中央道利用から中部横断道-新東名利用に変更されたか？）。
- (2) 中部横断自動車道が順次開通することによる時間短縮効果を計測。
- (3) 物流面の効果（物流の時間短縮効果（運送業者の生産効率性向上効果）、産業別 GRP 変化、清水港等を利用した貿易効果など）を計測。
- (4) 人流面の効果（自家用車を含む人流の時間短縮効果、観光客増による経済効果、インバウンド効果など）を計測。
- (5) 中部横断自動車道の災害時のリダンダンシー効果の計測方法の検討。

### 【役割分担】

- (1) 国土交通省甲府河川国道事務所と山梨県等が中心となりデータを収集。経路変更状況の把握は、大学(武藤)が協力して実施。
- (2) 国土交通省甲府河川国道事務所と大学(武藤)が交通ネットワーク分析に基づき実施。
- (3) (4) 物流効果、人流効果の計測は、国土交通省甲府河川国道事務所、山梨県等と協力しながら大学(武藤)が空間的応用一般均衡（SCGE）モデルを用いて実施。  
 また、中部横断自動車道開通が産業界にもたらした具体的な物流および人流面の効果は、山梨経済同友会等の協力をいただき大学(武藤)が調査する。
- (5) リダンダンシー効果の計測方法は大学(武藤)が検討を行い、必要なデータ等の整理を行う。

### 中部横断自動車道(新清水～六郷)の概要



空間的応用一般均衡（SCGE）モデル概要